

「日々の理科」(第 3138 号) 2023, -3, 10
「フクロウ巣箱にフクロウ来る! (2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

本来「フクロウ専用」に作った巣箱なのだが、どうもムササビにすっかり気に入られてしまったようだ。フクロウもムササビも、もともと樹木の穴(洞=うろ)で子育てをする、いわゆる「樹洞性営巣」をする生物だ。シジュウカラやヤマネとちがって、親の体が大きいので、アカゲラ(キツツキ)があけた程度の穴では営巣できず、ずっと大きな穴が必要だ。しかしそのような樹木は北軽井沢にも少なく、慢性的に「住宅難」に陥っているのだろう。



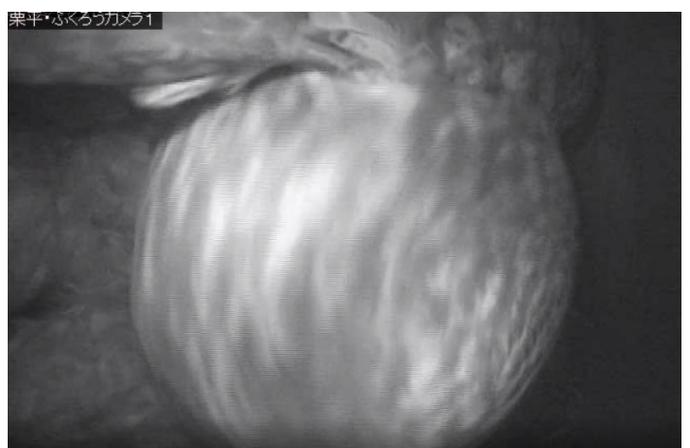
ムササビは冬と夏の2回、出産・子育てをする。それ以外の季節は、「昼寝」に来るだけだ。



2022年8月には、実際に1匹の出産が観察された。この巣箱で哺乳類の乳児が観察されたのは初めてである。出産直後でも、前肢と後肢の間に「飛翔膜」が見られ、間違いなく「ムササビの子」である。



フクロウの営巣では、生まれたばかりの雛にも、親鳥はネズミや小型野鳥の肉を千切って与えていた。しかしムササビは授乳の様子も確認され、興味深かった。残念ながら、しばらくすると子どもを連れて、巣箱から去ってしまい、巣立ちまで観察できなかった。



3月に入ると、ムササビはもっぱら昼寝だけになるが、フクロウは子育ての時期になる。先日の深夜1時過ぎ、ムササビが留守の間に、何者かが巣箱に入り込んだ。丸い頭の主は、三夜連続で現れた。



フクロウは営巣が可能か偵察に来たのだろう。巣箱の隅々までキョロキョロ見回している。ちょうどカメラを向いた一瞬がこの写真だ。やはりフクロウである。